以御勇力難述筆面存候。貴國當方被仰談上者、佐々内藏滅亡眼前候。隨而前田又左衞門尉殿へ各以書狀申入候之條、可然樣御取成奉憑存候。彌爰元時宜可御心安候。猶重而可申宣候間、不能子細候。恐々謹言。

土肥美作守　政繁　在判
唐人式部大輔　親廣　在判
寺島平九郎　信鎭　在判
齋藤五郎次郎　信言　在判
神保宗次郎　昌國　在判

(天正十二年)九月十八日

前田五郎兵衞尉(安勝)殿
參御宿所

九月十九日。假揭

【甫庵太閤記】　一八六九

今度佐々内藏助企謀叛、以多勢雖成、到于能州奥郡可令發向之行、引違推寄於末森城取圍、既及難儀之處、奥村助右衞門尉盡粉骨之働、堅固持靜之處、其方早速爲後詰被出勢、佐々内頭分之首十二到來、當家無二之忠義、大慶甚深之至候。恐々謹言。

羽柴筑前守　秀吉　在判

天正十二年甲申九月十九日

前田又左衞門尉(利家)殿　參

○

【遺編類纂】　一八七〇

今度佐々内藏助企野心、催多勢能州奥郡ゟ可向躰饗、不意末守ゟ押寄、二・三之丸を乘、本丸一重成候處、奥村父子堅固相守、盡粉骨持堅候處、其方父子早速爲後卷致加勢、佐々人數多討捕、頭分之首十二到來、喜悅不過之、無比類働、當家之面目無二之忠節、其深事不可勝計。猶期後音候也。仍如件。



五月十九日

羽筑前　秀吉　在判

前田又左衞門尉　參

（第二通は第一通より變じたるものなるべし。その成政が能登奥郡に發向すべき行をなせりといふが如きは全く事實にあらず。何れにしても假作なり。）

十月五日。前田利家、上杉景勝の臣直江兼續に、丹羽長秀の久しからずして來援せんとすることを告ぐ。

【保阪文書】　越後　一八七一

此表爲御見廻、重而預示快然之至候。仍爰元仕置彌丈夫申付候。就其惟住(丹羽長秀)越前守、去廿八日從尾州令歸陣候。近日此地出陣、其外二万余出勢候。然者貴國先手衆、堺(越中)之城外構放火候て虎眼迄之由、此口上承候。御手柄不及是非候。此節申談、佐々可對治事眼前候。猶追々可申達候。恐々謹言。

(天正十二年)十月五日　利家(前田)　在判

直江山城守(兼續)殿
御返報

十月十一日。前田利家、奥村家福及び千秋範昌に加增知行の所付を與ふ。

【遺編類纂】　一八七二

能州押水之内所々村付
但山林竹木除之

一、三町六反半五分　はり山
此米百九拾俵壹斗六升貳合五勺
一、廿七町貳反拾三歩　敷波村
此米百拾六俵三升貳合五勺
一、三拾七町六反大九拾歩　宿村
此米千百三拾俵貳斗貳升五合
合貳千五拾六俵貳斗貳升
此内
千俵　奥村助右衞門尉